

第45期中間事業報告書

2005年4月1日～2005年9月30日



株式会社島精機製作所

Ever Onward—限りなき前進

全自動手袋編機の開発を原点とする当社は、創業当初から『世界初』の製品づくりという目標を掲げるとともに、『Ever Onward 限りなき前進』を経営理念とし、創意と工夫により最高機能の製品を経済的な価格でお届けすることを基本に、常に顧客の立場に立ち、ニーズを先取りした製品開発を行ってまいりました。

さらに人々の生活に欠くことのできない「衣」の分野において、労働集約型産業から知識集約型産業への転換を促し、今までにない魅力ある商品づくりや新しいビジネスモデルを業界に提案すべく、独自の技術開発に全力をあげており、ハードウェア、ソフトウェアに加え、ノウハウ、デザインまでも包含した総合的なサービスと情報を提供し、ファッション産業を始めとするユーザー業界の活性化に貢献するとともに、新しい衣の文化を創造し、世界中の人々の心を豊かにすることを目指しています。

総合メカトロニクス企業として、独創性あふれるトータルソリューションを企画提案し、新たな『創造』にチャレンジし続ける当社に、より一層のご支援、ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



CONTENTS

p.1	・・・ 企業理念	p.7-11	・・・ トピックス
p.2	・・・ 第45期の取組み	p.12	・・・ 株主優待のご紹介
p.3-4	・・・ 社長メッセージ	p.13-16	・・・ 財務データ
p.5	・・・ 決算ハイライト	p.17	・・・ 株式の状況
p.6	・・・ 営業活動のご報告	p.18	・・・ 会社概要

第45期 (2005年4月1日～2006年3月31日) の取組み

当社グループにおける当期の取組み

4月	<p>14日【テレビ放映】朝日放送「ムーブ！」で当社紹介</p> <p>28日【IR】第44期決算を発表</p>	8月	<p>30日【展示会】中国国際縫製設備展覧会 (CISMA2005) に出展 (P.11)</p>
5月	<p>1日【テレビ放映】テレビ和歌山「和歌山経済マガジン」で当社紹介</p> <p>18日【展示会】国際アパレルマシンショー (JIAM2005) に出展 (大阪) (P.11)</p>	9月	<p>28日【受賞】「緑化優良工場等表彰 (財日本緑化センター会長賞)」を受賞 (P.10)</p>
6月	<p>3日【展示会】第11回上海国際紡織工業展覧会 (上海テックス) に出展 (P.11)</p> <p>17日【テレビ放映】NHK総合「わかやまNEWSウェブ」で島正博社長を紹介</p> <p>23日【新製品出荷】無製版プリントシステム・SIP - 160Fを初出荷 (P.11)</p> <p>29日【IR】第44回定時株主総会を開催</p>	10月	<p>6日【テレビ放映】テレビ大阪系「ビジネス525」で当社紹介</p> <p>17日【展示会】アジア国際繊維機械展覧会 (ITMA ASIA 2005) に出展 (シンガポール)</p> <p>28日【IR】第45期中間決算を発表</p> <p>【新製品開発】経糸編成と緯糸編成が可能なコンピュータ横編機LAPIS、バリエーションを拡大したホールガーメント[®]横編機などを発表</p>
7月	<p>1日【テレビ放映】NHKBS2「あなたとエアロビック」に従業員有志が出演、製品・職場など紹介</p> <p>9日【テレビ放映】日本テレビ系「世界一受けたい授業」でホールガーメント[®]を紹介</p> <p>13日【受賞】「日本赤十字社金色有功章」を受章 (P.10)</p> <p>27日【IR】第45期第1四半期決算を発表</p> <p>29日【展示会】ホールガーメント[®]10周年記念イベント開催 (P.7~8)</p> <p>下旬【CSR】オペラ「蝶々夫人」(愛知万博他で開催)の公演に協賛 (P.9)</p>	11月	<p>1日【その他】中国・上海に現地法人希摩 (上海) 貿易有限公司を設立</p> <p>【展示会】イタリアン・ヤーン・ランデヴーに出展 (東京)</p> <p>13日【テレビ放映】テレビ東京系「地球共生」で地球環境に配慮したホールガーメント[®]を紹介</p> <p>18日【展示会】国際ニット機械見本市 (IKME) に出展 (イタリア)</p>
12月	<p>上旬【その他】新工場FA2号棟竣工 (予定) (P.11)</p>	2月	<p>1日【展示会】PITTI IMMAGINE FILATI展に出展 (イタリア) (予定)</p>

株主の皆さまへ

第45期中間期の業績のご報告と 今後のビジョン

当中間期の業績の概要について

当中間期においては、05年1月のクオータ（繊維製品の輸入割当制限）撤廃により、消費地である欧米市場では、中国からの輸入品の攻勢を受け売上は減少しました。また、中国では製品輸出の急増が欧米との貿易摩擦に至り、輸出自主規制をめぐる情勢の不安定感から設備投資は前年同期に比べ減少しましたが、香港では堅調な売上となり、東南アジア市場全体では前年同期並みの売上となりました。一方、ホールガーメント[®]（無縫製ニット）横編機につきましては、国内市場でホールガーメント[®]製品の浸透は着実に進んでいるものの、輸入ニット製品比率が依然として高く、厳しい業界環境のなかで新規の設備投資には至らず大幅な減少となりました。また、手袋靴下編機については、主力の韓国市場に加えアジアの新興国の売上が増加したことで、前年同期に比べ若干増加しました。その結果、連結売上高は前期に比べ減少となりました。また、利益面につきましても、売上高の減少に加え、ホールガーメント[®]横編機の売上が伸び悩み売上総利益率が低下したことや販管費の増加により、営業利益、経常利益、中間純利益ともに大幅な減少となりました。



代表取締役社長 島 正 博

業界の動向について

安価な労働力を背景に世界の工場として繊維製品の生産拠点となった中国からの輸出が欧米市場に大量に流れ込み、欧米での設備投資意欲の減退が見られました。そして低価格のポリウムゾーン商品ではコスト競争力の面から対抗できないとの意識が働き、活路を求める動きとして、魅力のある付加価値の高い製品であるホールガーメント[®]への期待がこれまでも増して高まっています。

ホールガーメント[®]に対しては、そのメリットが十分に理解されず、着る人にやさしいという最大の魅力を引き出せていませんでしたが、7月に行ったホールガーメント[®]10周年記念「ファッションショー」の成果でデザイン性に優れ、着やすく軽いといった付加価値の高い製品にこそその真価を発揮することが再認識されてきています。

このように今後のアパレル・ファッション業界は、中国などでの低価格のポリウムゾーン商品の大量生産型と先進国などにおいて付加価値の高い製品をクイックレスポンスに提供する消費地型生産の二極化がますます進むものと考えられます。

今後の見通しについて

海外市場では、ニット生産の二極化のなか、東南アジア市場とりわけ香港、中国の重要性には変動はなく、堅調な需要を予想しますが、クォータ撤廃後の欧米当局の動向には政治的要素も加わり、予断を許さない状況となっています。一方、消費地型生産の欧州市場では、11月にミラノで開催されるI K M E（国際ニット機械見本市）における新機種によるパリエーション拡大を契機に、イタリアを中心にホールガーメント[®]横編機の拡がり本格化するものと期待しています。

国内市場では、ファッションショーによる斬新な企画提案に対し、業界全体にホールガーメント[®]を核としたニットのモノづくりへの気運が高まっており、業界活性化に取り組んでまいります。

このようにI K M Eやファッションショーなどの効果に加え、ウォームピズによる消費需要の押し上げが見込まれるものの、上半期の落込みを回復するまでには至らないため、通期の連結業績予想を売上高450億円、営業利益65億円、経常利益70億円、当期純利益40億円と当初計画を修正いたしました。



中長期的な経営戦略、目標について

当社では、次の5つの戦略を柱に、安定的な発展を目指しています。

コンピュータ横編機業界でのシェアアップ
ニットからテキスタイルにいたるアパレル関連業界全般へのデザインシステムの積極的な提案
手袋靴下業界への販売拡大
高収益体質の構築
リスク管理体制の強化

また、企業価値の向上と安定した経営を維持し、収益に対応した株主への利益還元を積極的に行うためにも、当社では経営指標として連結での1株当たり当期純利益（EPS）を200円以上とすることを当面の目標としております。

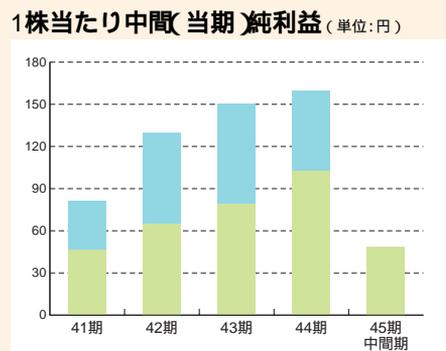
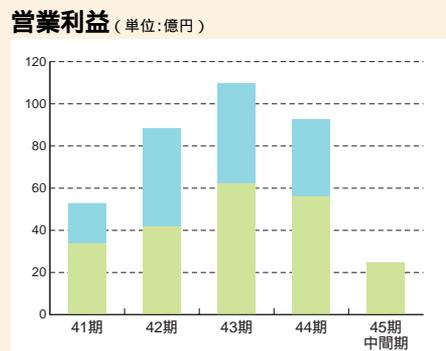
ファッション産業に属する当社は、人々の生活に欠かせない衣の分野でホールガーメント[®]に代表される常に新しい製品、技術を開発し、世に送り出してきました。そして今後も魅力あふれるモノづくりを通じて新しい衣の文化を創造し、世界中の人々の心を豊かにすることを目指しています。

このような世界に必要とされる事業の展開を通じ、業績の維持・向上をはかり、安定的な利益の確保に全力を傾注して企業価値を高めてまいりたいと考えております。株主の皆さまにおかれましては、これまでと同様、より一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

決算ハイライト

科 目	連 結			単 体		
	当中間期 (2005年9月期)	前中間期 (2004年9月期)	前 期 (2005年3月期)	当中間期 (2005年9月期)	前中間期 (2004年9月期)	前 期 (2005年3月期)
売 上 高 (百万円)	20,912	24,666	46,094	20,347	22,961	43,960
営 業 利 益 (百万円)	2,453	5,620	9,257	2,039	4,317	7,343
経 常 利 益 (百万円)	3,113	6,122	9,363	3,012	5,055	7,645
中間(当期)純利益 (百万円)	1,782	3,763	5,930	1,884	3,196	4,952
1株当たり中間(当期)純利益 (円)	48.61	102.46	159.97	51.39	87.02	133.44
総 資 産 (百万円)	108,823	106,702	107,234	104,582	103,348	103,509
株 主 資 本 (百万円)	93,691	90,791	92,115	87,775	85,556	86,477

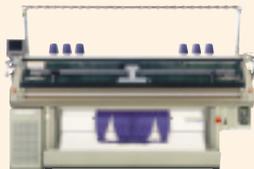
業績の推移 (連結)



営業活動のご報告（連結）

横編機部門

当社のコア・ビジネスである横編機事業では、本年7月末にホールガーメント[®]横編機発売10周年を記念してファッションショーを開催し、消費地型ニット・アパレル業界にホールガーメント[®]



SWG-X
ホールガーメント[®]
コンピュータ横編機

の先進性・独創性を活用した企画提案型企業としてのトータルソリューションを示すことで業界の活性化を進めることができました。一方、労働集約型の重要な生産拠点であるアジア地域では、欧米などへのボリュームゾーン商品の生産を中心とした従来型コンピュータ横編機（SESシリーズ）の需要が増加しております。

海外市場におきましては、クォータ撤廃に伴う中国製品の輸出拡大に対して、米国がセーフガードを発動、EUも輸入制限の動きを見せ、加えて中国政府による金融引締めなどに伴う情勢の不安

定感から、設備投資は先送り傾向で推移しました。この影響により中国市場は、前年同期に比べ売上は大幅な減少となりましたが、香港では旺盛な投資意欲が持続しており、順調に売上を伸ばす結果となりました。中東のトルコでは前期の調整局面を脱し回復に転じました。一方で欧米市場では、主にアジアからの輸出品攻勢を受けて設備投資は低調な推移となりました。この結果、海外売上高は前年同期に比べ減少となりました。

国内市場では、輸入品の増加や衣料品の低価格化傾向が継続し、設備投資は低調な推移となりましたが、ファッションショー開催を契機とした積極的な営業活動が、ホールガーメント[®]による市場活性化の気運を高め、下期に期待をつなぐ結果となりました。国内売上高は第1四半期の不振が響き、前期に比べ大幅に減少しました。

横編機事業全体としては、売上高は171億10百万円（前年同期比17.7%減）となりました。

デザインシステム関連部門

デザインシステム関連事業では、ニット・アパレル業界における企画デザインからモノづくりの過程に必要なワークフローを提供するツールとして、バーチャルサンプルの提案で時間とコストを大幅に削減できる高機能性と操作性を駆使し、「SDS-ONE」の提案販売に傾注しましたが、海外及び国内市場ともに前年同期を下回るペースで推移し、売上高は7億81百万円（前年同期比26.2%減）となりました。



SDS-ONE
デザインシステム

手袋靴下編機部門

手袋靴下編機事業では、中国市場での模倣機の影響は依然としてあるものの、韓国が堅調な推移となり、アジアの新興国などで作業手袋の需要が伸びたことで全体として持ち直し、売上高は15億73百万円（前年同期比5.4%増）となりました。



NewSFG
シームレス手袋編機



ニットの新たな可能性を提言

<ホールガーメント[®]誕生10周年記念イベント開催>

当社は、10年前の1995年10月、イタリア・ミラノで開催されたITMA 95（国際繊維機械見本市）に、世界で初めて開発したホールガーメント[®]（無縫製ニット）横編機を出展し、糸から直接最終製品が出来る新技術として、イタリアや日本をはじめとするニット先進諸国にセンセーショナルな話題を引き起こしました。

その発表以降も引続き「Ever Onward 限りなき前進」の経営理念のもと、ハードウェアの充実、ソフトウェアのバージョンアップ、編成ノウハウの蓄積、業界における新しいビジネスチャンスの創出に当社は努めてまいりました。

そして、2005年夏 ホールガーメント[®]の誕生10周年を記念するとともに、世界に例のない感性を刺激するイベントとして、ホールガーメント[®]先進国である「日本とイタリア」をテーマに両国のコラボレーションによるファッションショーを開催いたしました。

〔イベント概要〕

開催日： 2005年7月29日、30日

場 所： 和歌山ビッグホエール（和歌山市）

企画内容：

1階アリーナ特設会場：ファッションショー

2階ギャラリー：ニットサンプルの展示・

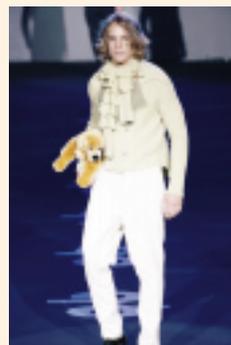
当社製品のデモンストレーション



2002年4月に開催した当社「創立40周年記念ファッションショー」を契機に、先進国地域でのニット生産におけるホールガーメント[®]横編機の優位性がユーザー業界内に広く浸透・定着し、店頭でもホールガーメント[®]製品が目につくようになりましたが、従来の縫製を必要とする横編機に代わるものとして、ホールガーメント[®]横編機の販売台数の顕著な増加には結びついていませんでした。

こうした状況の中、ホールガーメント[®]の先進性、独創性を強くアピールする新たなステップとして位置付けた「ホールガーメント[®]誕生10周年記念イベント」を本年7月に開催いたしました。

今回のイベントでは、ホールガーメント[®]をはじめとした横編ニット技術の最新情報を、ユーザー業界における実際のビジネス活動に直結した内





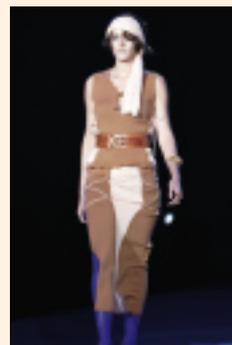
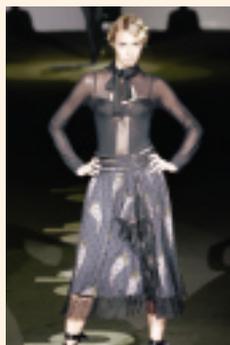
容としてプレゼンテーションすることをその目的としました。そのため国内外のニットメーカーやアパレルはもとより、百貨店、流通、商社、紡績など繊維業界全体にまで裾野を広げ、その中でもトップマネジメント層だけではなく、デザイナーや企画スタッフなどモノづくりの現場や消費者との接点である売場などの第一線で活躍の方々にもホールゲーム[®]をはじめとした最新のニット技術を提案しました。

イベント会場では、メインのファッションショーとリンクする形で、当社のオリジナルサンプルの展示や製品のデモンストレーションを行いました。500点以上ものオリジナルサンプルを目の当たりにされた来場者の多くから、当社の技術力・提案力を高く評価いただきました。

なかでも、日々移り変わりの激しい消費者ニ-

ズに直面するユーザー業界の第一線の方々から、ホールゲーム[®]がここまで進歩したか、という声を多数いただけたことは、今後の当社のビジネスにとっても大きな布石になったと考えています。また、会期中には約2,000名の関係者にご来場いただきましたが、イベント終了後も展示サンプルの問合せやサンプル提案などの依頼が引続き多数寄せられており、イベントでの当社の提案が波及効果と呼び、来場者を通じて各ユーザーにおいてブランド横断的、全社的な取組みが始まっています。

こうしたイベントの効果を結実させるべく、今後も引き続き、ホールゲーム[®]を当社ビジネスの中核と位置付けて先進国のユーザー業界への提案を進めるとともに、ホールゲーム[®]横編機をはじめとする当社製品の拡販に努めてまいります。



CSRへの取組み

～ステークホルダーズへの貢献～

当社では、さまざまな活動を通じて、CSR（企業の社会的責任）への取組みを行い、株主、顧客、地域社会といった当社をとりまくステークホルダーズへの貢献を目指しています。

オペラコンサートの協賛

ホールガーマメント[®]誕生10周年記念事業として、ファッションショーの開催のほか、イタリアを代表する作曲家であるプッチーニのオペラ「蝶々夫人」の日本公演に協賛いたしました。

公演のステージでは、世界的な照明デザイナーである石井幹子氏のデザインによるホールガーマメント[®]の衣装を身にまとったソリストが華麗な歌声と共に、その洗練されたホールガーマメント[®]の魅力が大勢の観客へ存分にアピールしました。



地球環境への配慮

当社グループでは環境へ配慮したさまざまな取組みを行っています。

なかでも工場棟の屋上に設置した合計出力520kWの太陽光発電設備により、二酸化炭素の排出量を年間約400t削減しています。また、新工場の建設にあたって「地球環境に配慮した省エネルギーと人にやさしく快適な次世代工場」をコンセプトに照明や空調などの電力消費量削減と併せ、出力610kWの太陽光発電設備を新たに設置するなど、まさに環境指向の工場といえます。



他にも地球温暖化防止への一助となるよう、「ノーマイカーデー」の導入など環境保全への全社的な取組みを行っています。

また、地球的規模での環境配慮の一環として、私達はホールガーマメント[®]の普及・促進を呼びかけています。

世界的に生産されるニット製品は膨大な数量ですが、その大多数は裁断・縫製を要するもので、そこから生じるカットロスやその加工エネルギーは資源の無駄に他なりません。ホールガーマメント[®]はこういった資源ロスを削減するだけでなく、店頭での在庫を持たずクイックレスポンスにも対応できるため、製品の廃棄ロスも生み出しません。ホールガーマメント[®]が今後拡がりをみせれば、その環境保全への効果は絶大といえます。ホールガーマメント[®]を着用することが地球環境に配慮する活動の小さな一歩となるのです。

『緑化優良工場等表彰 (財)日本緑化センター会長賞』を受賞

本年9月28日に、和歌山本社工場が『緑化優良工場等表彰 (財)日本緑化センター会長賞』を受賞しました。

「工場緑化の推進に努力し、周辺地域の生活環境の向上に大きく貢献し、その功績が顕著である」ことが認められ、今回の受賞となりました。



選考にあたっては、敷地面積に占める緑地の割合、周辺環境との調和、地域住民との協調を勘案し、総合的に判断されました。

当社ではヨーロッパに多く見られる“緑の中の工場”を目指し、創業間もない工場建設当初から、工場の緑化に力を注いできました。12年前には5,300坪に及び緑地を敷地内に作り、季節の彩りを感じることができる環境を地域社会に提供しています。



献血事業への協力

去る7月13日、那智勝浦町体育文化会館において、皇太子殿下ご臨席のもと、第41回献血運動推進全国大会が開催され、席上当社は『日本赤十字社金色有功章』を受章しました。

同章は、献血回数100回以上の献血者ならびに献血活動継続年数20年以上の団体に授与されるもので、昭和48年から32年の長きにわたって続けてきた当社の活動が評価されたものです。



ニットに注目！ 環境にやさしい「ウォームビズ」

この夏に話題となった「クールビズ」に引き続き、10月より環境省では地球温暖化防止のため、秋冬の新しいビジネススタイルとして「ウォームビズ」を推奨し、暖房時のオフィスの室温を20 にすることを呼びかけています。夏場のノーネクタイ・ノージャケットを提唱した「クールビズ」に続いて、衣料品購入の経済効果も期待されており、その中でも特に注目されているのがニットです。

コーディネートとしては、ジャケットの下に薄手のカーディガンやベストを着用したり、ニットの重ね着などが想定されています。

ニットは暖かくおしゃれで、ウォームビズの考えにマッチし、クールビズがどちらかといえば男性中心であったのに比べ、女性も対象とすることで更なる需要の拡大が予想されます。

また、環境対応といえば、当社のホールガメント[®]は裁断、縫製のいらぬ縫い目のないニットのため、省資源・省エネに貢献できる地球環境に配慮した製品です。ホールガメント[®]を着用して、ウォームビズを実践すれば更に環境保護に有効です。

「ウォームビズ」とは

「ウォームビズ」とはウォーム（暖かい）とビズ（ビジネス）が組み合わさった言葉で、“寒いときは着る”、“過度に暖房機器に頼らない”という原点に立ち返り、「暖房に頼りすぎず、働きやすく暖かく格好良いビジネススタイル」です。

展示会レポート

当社では国内・海外ともにさまざまな展示会に出展し、製品の市場への浸透や販売の促進に努めています。

当中間期は、海外では6月の第11回上海国際紡織工業展覧会（上海テックス）や8月末から9月にかけて上海で開催された中国国際縫製設備展覧会（C I S M A 2 0 0 5）

など、中国市場での展示会に出展いたしました。ともに繊維大国となった中国での世界規模の展示会であり、多くの来場者で盛況となりました。



中国と欧米の貿易摩擦等の問題で生産拠点がアジア周辺国に拡散を見せるなか、インドやベトナムなどからの来場者も目立ち、また地元中国でも品質を高める設備等へのニーズは強く、当社の最新の製品や技術に高い関心が寄せられました。

一方、国内においては国際アパレルマシンショー（J I A M 2 0 0 5）に出展し、横編機を中核とする総合システム機器メーカーとしての技術の真価を披露しました。

当社ではこのような展示会等を通じ、今後も新しい魅力を創造する価値のある製品や技術の提供に努め、市場の開拓、浸透に取り組んでまいります。



FA2号棟まもなく完成！

2005年3月に主要製品のフレキシブルな生産体制の確立を目的に建設をスタートした新工場F A（Factory Amenity）2号棟がまもなく完成を迎えます。

天井からの自然採光に加え、インバーター照明、無段階調光センサーを採用し、照明の電力消費量を従来比で40～50%削減できるほか、空調面でもインバーター空調、熱交換型給排気機器の採用により、ランニングコストを年間35%削減できます。太陽光発電設備も設置し、さまざまな面で環境に配慮した設計となっています。



【完成予定】2005年12月

新製品 SIP - 160F

ドレスやコートなどの大きなアイテムや布帛へのプリントにも対応できる幅広い印刷エリアを備えた無製版プリントシステムです。

S I P - 1 6 0 F では製版を必要としないので、オンデマンド・小ロット生産にも対応。ファブリックやニットの特性を生かしたままプリントでき、優れた発色で微妙なグラデーションも表現できます。

また、インクには染料に加え顔料を装備したことで、幅広い素材への対応とコスト低減にも貢献します。



株主優待のご紹介

当社では毎年3月末日と9月末日を基準日として、単元株主様に株主優待を実施しております。

3月期のご優待では、每期趣向を凝らして、国内では入手が困難なイタリア直輸入製品(ワイン、レース製品、ベネチアグラス等)や当社の横編機で編み立てられたオリジナルのホールガーメント[®](無縫製ニット)製品などを特別企画品としてお贈りしてきました。

今9月期につきましては、当社グループ企業が経営する南紀白浜「ホテル マーキーズ」[、]「オーベルジュ サウステラス」の宿泊優待割引券(正規料金の30%引)を進呈いたします。

ホテルマーキーズ
和洋創作会席コース料理



【今9月期のご優待】

宿泊優待割引券

発行基準		
	ホテル マーキーズ	オーベルジュ サウステラス
100株以上	2枚	2枚
1,000株以上	4枚	2枚
3,000株以上	6枚	2枚

(それぞれ1枚で2名様まで
ご利用いただけます。)



オーベルジュサウステラス

【これまでの3月期の株主優待品】

ご所有の株数によりお届けしました優待品は異なります。

ニット製品



メンズマフラー/
レディースブチマフラー



メンズセーター/
レディースセーター



メンズセーター/
レディースアンサンブル

(2005年3月期)

2005年3月期のご優待品(ニット製品)のお届けは2005年12月を予定しています。



調味料セット



ショール



ブランケット

(2004年3月期)



イタリア・ワイン

(2003年3月期)

財務データ（連結）

連結貸借対照表

（単位：百万円）

科 目	当中間期 2005年9月30日現在	前中間期 2004年9月30日現在	前 期 2005年3月31日現在
流動資産	78,478	76,583	76,862
現金及び預金	8,319	7,378	10,187
受取手形及び売掛金	58,924	57,754	55,581
その他	13,817	13,612	13,345
貸倒引当金	2,582	2,161	2,253
固定資産	30,345	30,119	30,372
有形固定資産	18,833	18,068	18,205
土地	10,607	10,292	10,611
その他	8,226	7,775	7,594
無形固定資産	155	114	138
投資その他の資産	11,356	11,936	12,028
その他	12,476	12,815	13,003
貸倒引当金	1,120	879	975
資産合計	108,823	106,702	107,234
流動負債	12,503	13,376	12,550
支払手形及び買掛金	4,839	5,552	5,429
その他	7,664	7,824	7,121
固定負債	2,448	2,348	2,384
退職給付引当金	1,542	1,481	1,498
その他	905	867	886
負債合計	14,952	15,725	14,935
少数株主持分	180	186	183
資本金	14,859	14,859	14,859
資本剰余金	21,724	21,724	21,724
利益剰余金	64,164	61,875	63,381
土地再評価差額金	4,630	5,153	5,135
その他有価証券評価差額金	367	102	155
為替換算調整勘定	111	177	189
自己株式	2,683	2,439	2,680
資本合計	93,691	90,791	92,115
負債、少数株主持分及び資本合計	108,823	106,702	107,234

連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当中間期	前中間期	前 期
	2005年4月1日から 2005年9月30日まで	2004年4月1日から 2004年9月30日まで	2004年4月1日から 2005年3月31日まで
売上高	20,912	24,666	46,094
売上原価	11,803	13,060	25,276
売上総利益	9,108	11,605	20,817
販売費及び一般管理費	6,655	5,985	11,559
営業利益	2,453	5,620	9,257
営業外収益	702	530	462
営業外費用	42	28	356
経常利益	3,113	6,122	9,363
特別利益	-	27	227
特別損失	224	37	72
税金等調整前中間(当期)純利益	2,888	6,111	9,518
法人税、住民税及び事業税	1,304	1,603	2,739
法人税等調整額	185	711	813
少数株主利益又は損失()	11	32	34
中間(当期)純利益	1,782	3,763	5,930

連結剰余金計算書

(単位:百万円)

科 目	当中間期	前中間期	前 期
	2005年4月1日から 2005年9月30日まで	2004年4月1日から 2004年9月30日まで	2004年4月1日から 2005年3月31日まで
資本剰余金の部			
資本剰余金期首残高	21,724	21,724	21,724
資本剰余金増加高	-	0	0
資本剰余金減少高	0	-	-
資本剰余金中間期末(期末)残高	21,724	21,724	21,724
利益剰余金の部			
利益剰余金期首残高	63,381	60,408	60,408
利益剰余金増加高	2,082	3,763	5,930
中間(当期)純利益	1,782	3,763	5,930
連結子会社増加に伴う増加高	299	-	-
利益剰余金減少高	1,298	2,297	2,957
配当金	733	734	1,377
役員賞与	59	58	58
土地再評価差額金取崩額	505	1,504	1,522
利益剰余金中間期末(期末)残高	64,164	61,875	63,381

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	当中間期	前中間期	前 期
	2005年4月1日から 2005年9月30日まで	2004年4月1日から 2004年9月30日まで	2004年4月1日から 2005年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前中間(当期)純利益	2,888	6,111	9,518
減価償却費	472	478	997
受取利息及び受取配当金	237	161	333
売上債権の増加額	3,274	6,022	3,950
たな卸資産の減少額(増加額)	65	213	452
仕入債務の増加額(減少額)	1,338	730	616
その他	1,357	1,051	1,028
小計	64	1,973	7,423
利息及び配当金の受取額	245	155	326
利息の支払額	17	1	15
法人税等の支払額	1,414	3,042	4,388
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,250	915	3,346
投資活動によるキャッシュ・フロー			
定期預金の純減少額(純増加額)	228	574	230
有価証券の純減少額(純増加額)	179	19	65
有形固定資産の取得による支出	437	827	1,318
有形固定資産の売却による収入	87	736	590
投資有価証券の取得による支出	929	-	1
投資有価証券の売却による収入	1,225	74	421
その他	121	29	346
投資活動によるキャッシュ・フロー	115	580	819
財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入金の純増加額	-	800	800
自己株式の取得による支出	3	3	246
配当金の支払額	732	734	1,376
その他	0	2	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	735	59	823
現金及び現金同等物に係る換算差額	72	26	24
現金及び現金同等物の増加額(減少額)	1,798	1,409	1,728
現金及び現金同等物の期首残高	8,998	7,269	7,269
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	96	-	-
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	7,296	5,859	8,998

財務データ（単体）

貸借対照表

（単位：百万円）

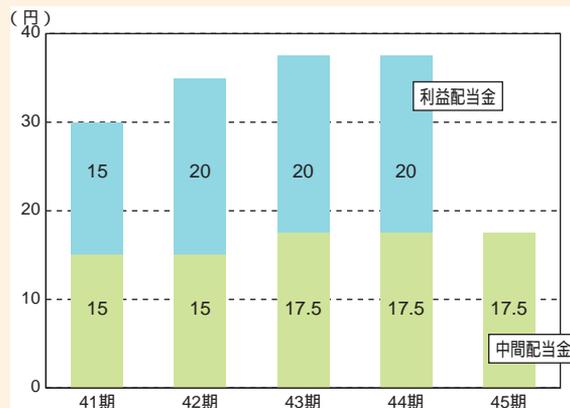
科 目	当中間期	前 期
	2005年9月30日現在	2005年3月31日現在
流動資産	74,135	72,847
現金及び預金	4,899	7,025
受取手形及び売掛金	58,870	55,613
その他	12,903	12,416
貸倒引当金	2,537	2,208
固定資産	30,446	30,662
有形固定資産	16,843	16,459
土地	9,877	10,096
その他	6,966	6,362
無形固定資産	133	115
投資その他の資産	13,468	14,087
その他	14,521	14,992
貸倒引当金	1,053	904
資産合計	104,582	103,509
流動負債	14,605	14,854
支払手形及び買掛金	6,953	7,734
その他	7,651	7,120
固定負債	2,201	2,176
退職給付引当金	1,295	1,290
その他	905	886
負債合計	16,806	17,031
資本金	14,859	14,859
資本剰余金	21,724	21,724
利益剰余金	58,150	57,560
土地再評価差額金	4,630	5,135
その他有価証券評価差額金	354	149
自己株式	2,683	2,680
資本合計	87,775	86,477
負債資本合計	104,582	103,509

損益計算書

（単位：百万円）

科 目	当中間期	前中間期
	2005年4月1日から 2005年9月30日まで	2004年4月1日から 2004年9月30日まで
売上高	20,347	22,961
売上原価	12,242	13,159
売上総利益	8,105	9,802
販売費及び一般管理費	6,065	5,484
営業利益	2,039	4,317
営業外収益	1,041	793
営業外費用	68	55
経常利益	3,012	5,055
特別利益	-	26
特別損失	210	65
税引前中間純利益	2,801	5,016
法人税、住民税及び事業税	1,180	1,216
法人税等調整額	262	604
中間純利益	1,884	3,196
前期繰越利益	3,050	3,042
土地再評価差額金取崩額	505	1,504
中間未処分利益	4,429	4,734

配当金の推移



株式の状況(2005年9月30日現在)

大株主

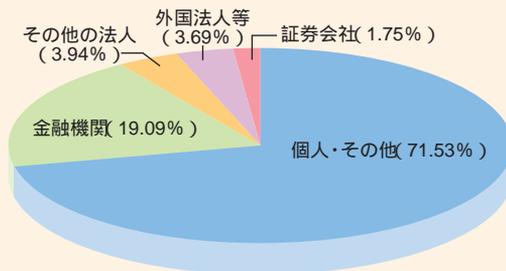
株主名	持株数	出資比率
島 正 博	4,685千株	12.46%
後 藤 明 史	2,390	6.36
島 三 博	1,980	5.27
和島興産株式会社	1,130	3.01
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	1,125	2.99
シマセイキ社員持株会	1,006	2.68
株式会社紀陽銀行	878	2.34
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	809	2.15
島 節 子	776	2.06
株式会社UFJ銀行	730	1.94

(注) 当社は、自己株式935千株を保有しておりますが、上記大株主から除外しております。

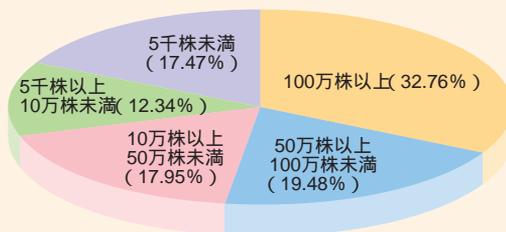
株式の状況

会社が発行する株式の総数 ...142,000,000株
 発行済株式の総数37,600,000株
 当中間期末株主数.....20,061名

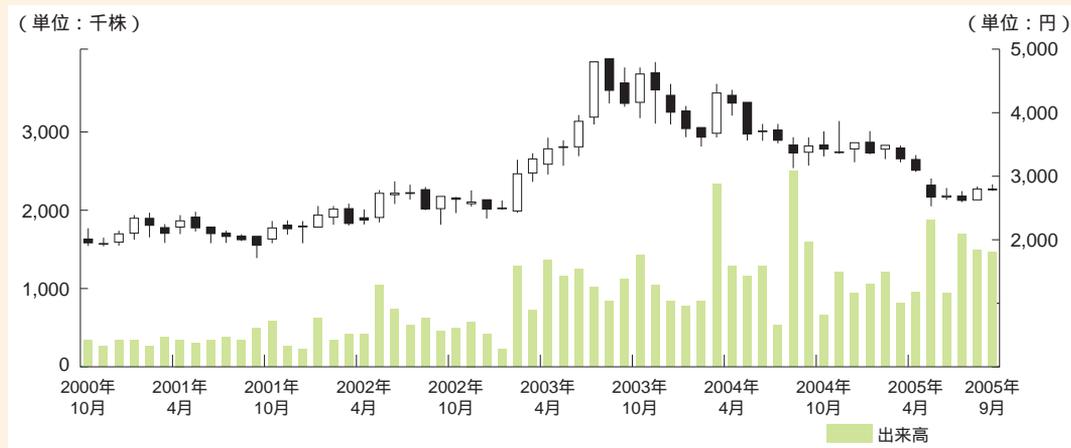
所有者別分布



所有数別分布



株価と出来高の推移 (過去5年間)



会社概要

会社概要(2005年9月30日現在)

商号 株式会社 島精機製作所
英訳名 SHIMA SEIKI MFG., LTD.
本社 和歌山市坂田85番地
創立 昭和37年2月4日
資本金 148億5,980万円
従業員 1,064名
事業内容 コンピュータ横編機
シームレス手袋編機、靴下編機
コンピュータデザインシステム
ニットCADシステム
アパレルCAD / CAMシステム

役員(2005年9月30日現在)

役名	氏名	担当または主な職業
代表取締役社長	島 正 博	
常務取締役	田 中 雅 夫	経理部長
取締役	岩 倉 煌 一	経営管理部長
取締役	京 谷 実	生産技術部長
取締役	森 田 敏 明	資材部長
取締役	和 田 隆	製造技術部長
取締役	後 藤 明 史	営業部長兼トータルデザインセンター部長
取締役	島 三 博	グラフィックシステム開発部長
取締役	片 桐 正二郎	企画部長
取締役	梅 田 郁 人	輸出部長
取締役	藤 田 紀	総務部長
常勤監査役	大 川 修	
常勤監査役	沖 殿 俊 幸	
監査役	的 場 悠 紀	弁護士
監査役	八 杉 昌 利	税理士

(注) 監査役 的場悠紀・八杉昌利の両氏は、「株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律」第18条第1項に定める社外監査役であります。

事業所(2005年9月30日現在)

本 社 和歌山市坂田85番地
支 店 東京支店(東京都中央区)
大阪支店(大阪市北区)
名古屋支店(名古屋市中区)
泉州支店(大阪府泉大津市)

営業所 山形営業所(山形県山形市)
福島営業所(福島県伊達郡保原町)
新潟営業所(新潟県五泉市)
甲府営業所(山梨県中巨摩郡昭和町)
四国営業所(香川県東かがわ市)
海外支店 台北支店(台北市)

株主メモ

決 算 期	毎年3月31日
配当金受取株主確定日	利益配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
定 時 株 主 総 会	毎年6月下旬
基 準 日	毎年3月31日 その他必要ある場合は、あらかじめ公告して定めます。
公 告 掲 載 新 聞	日本経済新聞 なお、当社は貸借対照表および損益計算書を当社ホームページ (http://www.shimaseiki.co.jp/irj/irj.html) に掲載しております。
株 式 事 務 取 扱 場 所	
名 義 書 換 代 理 人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同 事 務 取 扱 場 所	大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
(お問合せ先)	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話(0120)094-777(フリーダイヤル)
同 取 次 所	三菱UFJ信託銀行株式会社全国本支店
株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行株式会社の電話およびインターネットでも24時間承っております。	
電話(フリーダイヤル)	0120-244-479(本店証券代行部) 0120-684-479(大阪証券代行部)
インターネットホームページ	http://www.tr.mufg.jp/daikou/



株式会社島精機製作所

〒641-8511 和歌山市坂田85番地

TEL (073) 471 - 0511

URL <http://www.shimaseiki.co.jp/>